

サステイナブルな キャンプとは？

DEレポート No. 11

2023年5月
作成者:Y.T

 **脱炭素経営ドットコム**
By DENKOSHA

「DEレポート」とは、環境やSDGsに係る社会問題を取り上げ、原因・背景から解決に向けた施策事例や将来の展望までを調査しコンパクトにまとめた報告書です。脱炭素経営ドットコムを運営する株式会社電巧社では、全従業員が本レポートの作成に取り組んでいます。



■ 現在の状況

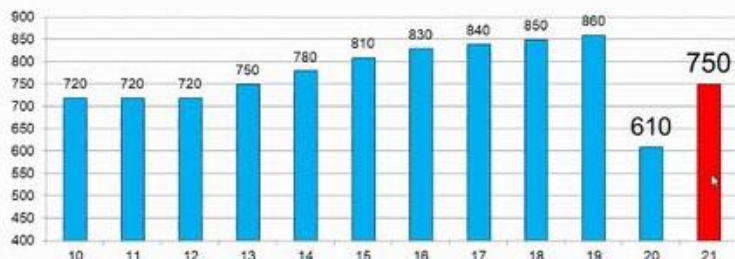
- キャンプ人口は年々増加していたが、コロナ禍でも三密を回避しやすいレジャーと認知され、他旅行業ほどの落ち込みは無く推移。それに伴い**ゴミ問題の急増**と水質汚染問題が発生。
- 日本ではバカンスでキャンプへ行く認知が強く、張り切って豪華な料理を作ることが多くなることから、都会で生活していれば分別してリサイクルすることが出来るゴミをわざわざ自然の中でただの廃棄物として排出することが多くなる。
- ゴミ回収が可能なキャンプ場はまだ良いが、持ち帰りのキャンプ場では付近の施設含めゴミの不法投棄が増えている。また、食器等を合成洗剤で洗うことにより、汚水処理施設の無いキャンプ場では水質汚染で生態系にも影響が発生している。
※水質問題に環境に対する影響度は詳細の調査が待たれる。

■ キャンプ人口の推移

■ キャンプ人口750万人に

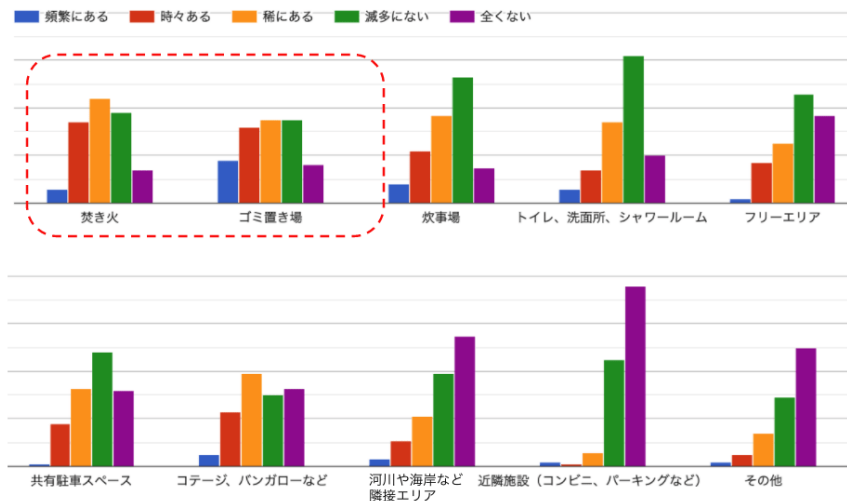
こうしたコロナ禍の中でも3密を避けられるレジャーとして注目され、ユーザーだけでなく、ビジネスとしても注目された結果オートキャンプ参加人口は610万人から750万人と、前年比23%と大きな伸びとなった

オートキャンプ参加人口



資料：日本オートキャンプ協会調べ

■ キャンパーのルール(マナー)違反



資料：日本オートキャンプ協会調べ

ゴミ削減と洗剤使用量を削減できる一挙両得の作戦とは！？

食べられる食器・カトラリーを使用してゴミや使用する洗剤を減らそう！

■ 解決事例と残る課題

- イートトレイ(丸繁製菓)、旨っ！カップ、もぐカップ、食べられるお箸などの活用
- 食べることの出来る食器やカトラリーを率先して使用することでゴミの排出量を減らすことも出来る上に洗剤の使用量も減らすことが出来る**一挙両得の作戦！**出来れば食材も事前準備して更なるゴミの圧縮を！！
- ただ、そもそも自然に行く際にゴミを持ちこむという行為をどこまで減らすことが出来るのか？一人一人の考え方をどうやって変えていくことが出来るのか！？

■ 食べれる食器がいにトレー



出典：株式会社丸繁製菓

■ 更に自然を大切に・・・



出典：フリー素材

キャンプをカルチャーにするためには！？

キャンプは人と自然のシナジー効果！！

■ 環境意識と未来像

- 日本人の環境意識は決して低くないが、一番関心が高いのは地球温暖化についてである。また、その対策については『**生活の質を脅かすもの**』という意識が強く、世界全体の『**生活の質を高めるもの**』という考えと反転している。
- 昨今のキャンプブームで自然での不自由さを感じながら日常と違う環境(自然)に触れ合うことで人間性を回復させ、環境に対する意識が高まることで徐々に考え方が変わり、休暇の過ごし方の一つの文化として定着するとよい。
- 大人が子供たちに対して自然を守っていく大切さを伝えることで日本人も環境に対する意識が高まり、人間は自然に触れ合うことで心を整えることができる。自然は人間の環境意識の高まりにより、豊かになっていくとシナジー効果を生まれていくと考える。

■ 最も関心の高い環境問題は？



出典：PR TIMES

■ キャンプはブームからカルチャーへ・・・



出典：フリー素材

環境意識を高め自然を大切にしていこう！

■ 参照・引用資料

- 一般社団法人 日本オートキャンプ協会,「オートキャンプ白書2022」2023年1月10日閲覧 (<https://www.autocamp.or.jp/post-14578/>)
- 一般社団法人 日本オートキャンプ協会,「オートキャンプ場のルール、マナーに関する調査報告」2023年1月10日閲覧 (<https://www.autocamp.or.jp/post-12787/>)
- 株式会社丸繋製菓,「食べれる食器イートレイ紹介」, 2023年1月10日閲覧(<http://marushige-icecone.com/works/index.html>)
- PR TIMES,「～環境問題についてのアンケート～ 主婦が最も心掛けているのはエコバッグ持参 ごみ削減・分別も意識」, 2023年1月25日閲覧 (<https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000323.000005157.html>)
- Greenfield,「SDGsの達成に向けてキャンプでも簡単に出来ること」, 2023年1月10日閲覧(<https://greenfield.style/article/130464/>)



<https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/>

脱炭素経営とは、再生可能エネルギーを創る「創エネ」、使う電気を減らす「省エネ」、創った電気を貯める「蓄エネ」を うまく活用し、会社・事業で排出する温室効果ガス「0」を目標にする経営のこと。

中小企業の私たちにも、できる取り組みが沢山あることを伝えたい。このような想いで、90年以上「電気」に向き合ってきた電巧社ならではのアイデアが詰まった創エネ、省エネ、蓄エネのソリューションをお伝えできる情報を、当サイトで発信しております。

DELレポートに関するお問い合わせ先はこちらへ

電 気 の コ ン シ ェ ル ジ ュ
DENKOSHA

株式会社 電巧社

〒105-0014 東京都港区芝2-10-4

TEL: 03-3453-2221(本社代表)

担当: DELレポート事務局

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社電巧社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。